

西都原考古博物館 第2期中期運営ビジョン評価表

※外部評価記入欄は省略

※評価欄の数値は4段階評価

内部評価	個別評価	4・・・目標を大きく上回った 1・・・目標を大きく下回った	3・・・目標を達成できた	2・・・目標をやや下回った
	総合評価	4・・・達成度 101%以上 1・・・達成度 59%以下	3・・・達成度 90～100%	2・・・達成度 60～89%
外部評価		4・・・期待以上できた 1・・・改善が必要	3・・・ほぼ期待どおり	2・・・やや期待を下回る

(1)調査研究

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
調査研究	論文等の執筆・研究発表等	一人年1回以上 (*学芸普及担当職員1人あたり)	*各職員が1本以上、論文等の執筆を行った。	3	4	1)多忙な業務のなかで、学芸員諸氏の個別研究の取り組みには敬意を示したい。 2)日常的に着実な調査研究活動の推進ならびにコロナ禍においても国内外との交流の継続は大いに評価できる。今後も西都原古墳群の発掘調査の進展に期待する。 3)古墳群保護に係る調査と保存整備の役割を担っている西都原考古博物館の重要性を年報を通じて感じる。 4)台湾・韓国との共同研究、国内地域との連携した研究、県内の考古学及び歴史研究等、職員の方々による視野の広い研究がなされていることに敬意を表する。 5)韓国、台湾等との国際交流で成果を上げられていることは高く評価できる。今後とも協力関係を発展させていきたい。 6)論文等の執筆および調査研究が着実に進められており、コロナ禍にあってもオンライン等のツールを利用して海外の研究機関と着実に交流を続けられている点は評価に値する。アウトプットの部分で、例えば論文執筆内容や調査内容の中から、年1つか2つをピックアップし、より一般向けの内容にかみ砕いて、博物館でどのような研究がなされているのかをアピールするような冊子を作成してみてもどうか。 7)毎年刊行される西都原考古博物館年報および西都原考古博物館研究紀要をホームページで全文を公開したらいかがだろうか。宮崎県総合博物館では年報をホームページ上で公開している。研究紀要に博物館職員以外の方が執筆する場合には、事前に公開の許可をとることも可能ではないだろうか。 8)西都原古墳群の調査を堅実に進めておられるのは成果が楽しみである。一方、酒元ノ上横穴墓については長期にわたり観覧不能となっているのが残念で、早い改修を希望する。 9)2019年に酒元ノ上横穴墓群を訪れたが、再整備工事のため見学できなかった。公開再開が待たれる。
	事業実績及び課題 *目標は達成しているが、より一層、調査・研究成果のアウトプットの質と量を高める必要がある。					
		評価指標	事業実績及び課題	個別評価		
		・特別史跡西都原古墳群の全容を理解するための調査と研究を行ったか。	*西都原291号墳(円墳)の墳丘形状や築造時期と、第3支群内の滅失墳の確認を目的とする調査を実施した。 *滅失墳の周坑内で地下式横穴墓の竪坑らしき遺構を検出した。	3		
		・地中レーダー探査によって、西都原古墳群をはじめとする県内の古墳群・遺跡の究明を行ったか。	*西都原古墳群鷺田(さぎた)支群内にある三宅神社南側の畑地を対象に実施した(探査面積3,869㎡)。現在、結果の解析を進めている。	3		
		・調査研究の成果を展示等に反映させ、史跡の保存整備に活かすなど、あらゆる機会をとらえて公開したか。 また、研究紀要、図録や報告書等で調査研究の成果を公開したか。	*酒元ノ上横穴墓群について昨年度に策定した新たな整備基本計画に沿って再整備工事に着手した。なお、計画の前提であった現在の屋根構造について、予想以上に劣化が進んでおり、室内環境の測定記録作業を追加で行っている。 *研究紀要1冊、図録2冊、発掘調査概要報告書1冊を刊行し、調査研究成果の公開に努めた。	3		
		・国内外の研究者と交流し、最新の研究動向の把握に努めたか。	*韓国関連では、協定を締結している国立羅州博物館との間で進めてきた日韓の横穴系埋蔵施設に関する報告書が韓国側から刊行され成果の一端が公表された。 *台湾関連では、新北市立十三行博物館との協定に基づき、国際交流展の画像資料や解説文原稿の提供を受けた。 *国内では古代歴史文化協議会の共同調査研究に参加したほか、水田稲作比較技術研究プロジェクトや文部科学省の科学研究費の研究分担などの研究協力を行った。	4		

3.7

(2)資料収集と保存活用

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見	
資料収集と保存活用	鉄製品保存処理件数	年50件以上 (外部委託を含める)	*62点の保存処理を行った。 (館内58点、外部委託4点)	4	4	10)目標値を上回り、保存活動に新たな取り組みが見られる点を評価したい。 11)堅実に収集を進めておられると拝見している。「図書・写真等」の「収集、分類・登録件数1,000件以上」の数値について、図書750冊は新規収集と理解できるが、写真のデジタルデータ化719件とは既収蔵資料のデータ化件数なのか、データ化された新規収蔵写真の件数なのかがよく分からなかった。既収蔵写真のデータ化ならば「保存」活動の一環であろう。すると図書のような「収集」とは別にした方が理解しやすいのではないか。将来の、運営ビジョン見直しの際に検討されたい。	
	事業実績及び課題 *高鍋町大戸ノ口第2遺跡の鉄製短剣の再接合を行うなど、市町村等からの要望に応じて県内出土鉄製品の保存処理を進めた。 *今後も適切な保存環境のもと、万全の状態が資料が保管できるように努める。						
	(図書・写真等)収集、分類・登録件数	年1,000件以上	*1,469件(図書750冊、写真のデジタルデータ化719件)	4			
	事業実績及び課題 *図書の受け入れは例年に比べて少ないが、これは新型コロナの影響による展示会等の減少など外的要因の影響が大きい。						
	評価指標		事業実績及び課題				個別評価
	・古人骨を適切に収蔵管理し、データの追加や更新を行ったか。			3			
	・土器や石器について、適切に保管し、活用の幅を拡げるために分類と修復を行ったか。			3			

3.8

(3) 展 示

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
入館者数	評価指標	目標値	実績値	個別評価	3	<p>12)入館者数に関して、特別展、国際交流展、企画展の期間の入館者数が前年度比で129%だったことは大変評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響で、目標値を大きく下回っているが、もう2年以上同じ状況であり、何らかの方策が早急に望まれる。西都原は春夏秋冬の花が有名で、多くの観光客が訪れるので、その流れで、考古博物館に足を運んでほしいが、奥まった立地で、しかも樹木等の関係で分かりづらいようにも思う。環境整備も含め、(5)とも関連するが、魅力発信を期待したい。</p> <p>13)昨年度の入館者数が増加したことや、イノシシと人間との関わりについて概観した興味深く質の高い展示等が行われていたことから、職員の工夫と努力が伝わってくる。</p> <p>14)コロナ禍の影響により入館者数の全体数が減少するのはやむをえないが、一方で、そのうち特別展、国際交流展及び企画展の入館者数が対前年より大幅に増加したことは、大変評価できる。今後とも、アンケートなどを活用して、県民ニーズに対応した展示を企画して頂きたい。</p> <p>15)コロナ禍の影響もあり、入館者数の減少はやむを得ない。</p> <p>16)コロナ禍の入館者の減少は懸念されるが、室内施設であるのに係わらず、目標の半数以上に達している点をどう評価するか検証を。</p> <p>17)展示内容については、多岐に及ぶ着眼点に基づく特別展は興味深かった。今後も、地域の子どもたちや教師の関心を集める企画として頂きたい、注目したい。</p> <p>18)魅力的なタイトルで、研究の成果が展示に活かされていた。ご苦勞の多い展示であるから、もっと多くの方々にみていただきたかったと思う。本年度はコロナに影響されず、広報によって関心が高まることを期待したい。</p> <p>19)昨年度同様、今年度も新型コロナウイルス感染拡大が続いていたにもかかわらず、対策を打ったうえで開館を続けたことは評価したい。そうした状況下、来館者が目標を下回ったとしても仕方ない面がある。</p> <p>20)コロナ禍で集客に苦戦しているのは致し方ないと思う。アフターコロナの時代にどのように博物館に来てもらうか、具体的な案が見えてこない。企画の問題なのか、広報の問題なのか、より細かい分析が必要なのかもしれない。入館者数にオンラインで参加された方などはカウントしているのだろうか？</p> <p>21)展示会の目標値として回数のみをあげているが、内容や広報の効果などが含まれる入場者数と組み合わせるようにはどうか。開催することに労力を要することは理解する。しかし、それだけでは実績は計れない。回数は少なくとも、個々の展示会に集客力があれば、よい評価を与えることができる。</p> <p>22)展示の特別展・国際交流展の実施回数について、年4回だと大変慌ただしく、短時間の準備での開催になりやすいことを懸念している。むしろ目標どおり年3回とし、展示のための十分な調査と準備に時間を向けられるほうが良いものになって宜しいのではないか。</p> <p>23)「縄文のこころ」展はテーマゆえか珍しい出土品、未知の知見が多く、意欲的・挑戦的な展示であった。「百余国の王、と『王之山』の玉璧」展は、資料の実物を公開したうえで、視野を北部九州や大陸まで広げてその謎に迫ろうという、やはり意欲的な試みだった。「イノシシと人間」展は、考古学に民俗学・民族学の視点を加味した視野の広い展示で、ユニークだった。</p> <p>24)玉璧を里帰りさせた特別展の弥生の王墓の比較は、興味深く良い勉強になった。</p> <p>『年報』の「事業報告」である20ページの特別展の文中、「玉璧が串間市にもたらされた可能性と、「王之山」が“王墓”であった可能性について考古学的に検討を行う展示会とした。」とあり、同様の文章は23ページ・34ページにもある。しかし当該特別展は、弥生の王墓とその出土品の比較が主たる内容であり、この記述はかなりずれたものになっているのではないか。事業報告としていかがなものかを感じる。</p> <p>25)「イノシシと人間」の展示は説明を聞くと大変興味深く、おもしろかった。ただし、聞く前は面白さを感じなかった。せっかくの研究と展示であり、もったいないと思った。</p> <p>26)「教科書から学ぶ考古学」は、良い企画であり、今後も継続的に取り組まれることを望む。</p> <p>27)常新展示を見直してみた。コピーに注目してみると、社会に大きな変革をもたらしたでき事を柱に、それを三つのレベルに分けて語りつつ、全体を流れるように構成している。こうした思潮ともいうべき大きな流れにテーマ的な情報、実物資料を組み合わせ、それらの三位一体で書籍とは異なる三次元空間を実現している。この展示スタイルは、いまだ斬新さを失っていないと考えるので、北郷泰道氏の遺産としてできる限り継承して欲しい。</p>
	事業実績及び課題	年12万人 (*本館及び古代生活体験館入館者)	*60,907人(本館54,456人+古代生活体験館6,451人)	1		
展 示	事業実績及び課題	*昨年度より増加したが、新型コロナの影響がなかった平成30年度との比較で約55%にとどまっており、アフターコロナの時代に多くの方に訪れていただけるような取組を続けていく。				
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	3.2	
	特別展・国際交流展等実施回数	年3回以上	*4回実施	4		
	事業実績及び課題	*特別展、国際交流展、企画展Ⅰ・Ⅱの期間中の入館者数は39,239名であった。これは前年度との比較では129%であった。				
	評価指標	事業実績及び課題		個別評価		
	・特別展においては、県外資料を含めて構成し、日本列島における南九州の地域性を明らかにする展示を行ったか。	*串間市から出土したと伝えられる玉璧を展示の核と位置づけ、比較検討の資料として弥生時代の王墓と呼ばれる墳墓と出土品(国宝重要文化財含む)の展示を行った。		3		
	・国際交流展においては、韓国や台湾からの国外資料を含めて構成し、東アジアにおける南九州の位置づけを考える内容の展示を行ったか。	*古来、主要な狩猟対象獣であったイノシシと人との関わりについて日本や台湾の先史時代から現代までの資料をもとに概観した。		3		
	・企画展においては、主に県内資料で構成し、古代日向の特徴について様々な視点で展示を行ったか。	*企画展Ⅰは縄文時代における精神文化、企画展Ⅱは教科書の記述と宮崎地域の考古資料の対比がテーマであり、担当した職員の視点を基に展示を構成した。		3		
・コレクションギャラリー展においては、主に館蔵資料で構成し、日々の博物館業務の中から設定されるテーマに沿って情報発信を行ったか。	*宮崎県の考古学界に功績のあった研究者に焦点を当て、4人の担当職員が分担して展示を行った。		3			
・多角的な視点で南九州を見つめるため、考古学に限らず、関連する諸学問や諸分野に関する展示等を行ったか。	*玉類の展示を希望する来館者の声に応じて、朝鮮半島由来の玉類に焦点を当てた展示を行った。		3			

(4) 教育普及

項目	内部評価				外部評価		
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見	
① 生涯学習 の一環と しての 教育普及 活動	講演会・講座の 実施回数	年15回以上	*9回実施		2	28) 宮崎市中央部から西都原考古博物館までの所要時間は約50分必要である。幼稚園の一般的な教育時間は10時～14時であり、昼食を含めたプログラムを幼児向けに作って頂ければ、西都市近郊からの教育・保育施設の来館が増加するのではないか。 29) コロナ禍の県内修学旅行先として西都原考古博物館が注目を浴びている。新型コロナが落ち着いた後も、訪れたい場所として選ばれる博物館であってほしい。そのためにも、積極的な情報発信を期待している。 30) 目標値には達していないが、コロナ禍にあつてさまざまな活動に創意工夫が見られる。 31) 勾玉制作だけでも体験活動ができたのは良かった。 32) 昨年も書かせて頂いたが、学校教育との連携活動は、大変重要な取り組みであるため、現在の評価方法では、根拠性に乏しいため、次期計画策定時には、評価の客観性を持たせるため、この項目について目標値の設定をご検討頂きたい。	
	事業実績及び課題						
	* 講演会2回、考古博講座2回(3回中止)、体験・実験講座3回(3回中止)、小中学生対象講座1回、考古博少年団1(年間7回活動)の実績値である。 * 制作や体験を行う当館の講座の性格上、対面での開催が基本であり、新型コロナの影響があらわれた形となった。						
	評価指標		事業実績及び課題				個別評価
	・古代生活体験のメニューの充実を図り、実践的に学べる機会を提供したか。		* 体験活動のメニューについては、感染症防止の観点から勾玉制作のみに限定しており、充実度の観点では低下している。				3
・見学会や現地説明会など関連活動を実施したか。		* 3月に実施予定であった発掘調査の一般向け現地説明会は中止となったが、ボランティアスタッフに限定して調査状況を公開した。		3			
② 学校教育 との連携	評価指標		事業実績及び課題		個別評価	3	
	・学校教育の中で博物館を活用するための支援を行ったか。		* 学校団体の利用時に、校区内の文化財の説明を行っている。 * 県内小学校の授業にオンラインでゲストティーチャーとして参加した。 * 当館を利用して、児湯るびなす支援学校が生徒の作品を発表する「アートフェス」を開催した。		3		
	・教育研究会等の各種事業を支援したか。		* 県内中学生の英語弁論大会や教育研究会等が当館のホールを使用して研究集会を行った。		3		
	・職場体験、インターンシップ、博物館実習等を積極的に受け入れたか。		* 地元の県立妻高校が当館を利用して「職場実習」と「課題研究」を行った。 * インターンシップについては今年度は中止となり、博物館学芸員課程の実習は希望者なしであった。		3		

3.0

(5) 情報発信

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
① 広報活動の充実	報道機関への情報提供回数	年20回以上	*16回実施	2	2	33) 図書館など諸施設へのチラシの配布が遅いと感じる。チラシ・ポスターはベースとなる広告媒体で、早めの配布が望ましい。 34) ホームページトップのスライドショーの写真は素晴らしい。ただし、必要な情報にたどり着くことが簡単でなく、また、興味を引く、ホームページを色々検索したくなるようにできないか。他県の考古学施設も、あまり検索しやすい、また興味を引くようなできばえではないと思った。 35) FacebookよりTwitterやInstagramの方が拡散力があると思うので、そちらも考えてみてはどうか。 36) 情報発信の手段として、ホームページやFacebookに加え、InstagramやYouTubeなどの活用も検討して欲しい。 37) 評価指数としているホームページやFacebookの更新回数は目標を大きく上回っているが、このことの評価に止まらず、その効果についても検証していく必要がある。利用者へのアンケート等を通して、年代や性別によって、どのような広報手段に効果があるのか等を分析することで、広報の方法を工夫し、利用者の拡大に繋げて欲しい。 38) 情報発信に関しては、内部評価でも十分ではない評価となっているが、一県民としてもやはり情報量の不足を感じる場所である。入館者数の伸び悩みの件もあるので、必要であれば、情報発信の外部委託等を検討し、抜本的な見直しを図っても良いのではないかと考える。 39) 九州管内でのテレビ放送で、入場無料ということにキャスターがびっくりされていた。よいPRになったと思う。 40) 古代生活体験館や復元建物のある北西エリアをはじめ訪れた。緑豊かな気持ちのよい公園のような空間で、シートを広げてくつろぐグループなどが見られた。存在を知らない人も多いと思うので、フィールドミュージアムの一環として機会を見つけてアピールしてはどうだろう。館の存在を身近に感じてもらうことも大切と考える。
	事業実績及び課題		* 講演会、講座の実施回数が減少し、その告知のための情報提供の数が8件に留まったことで目標値を達成できなかった。			
	評価指標		事業実績及び課題			
	・博物館の利用者を増やすために、様々な広報媒体を使って館の情報発信を行ったか。	* 当館のホームページやFacebookページを利用して当館の活用内容を発信した。また、雑誌やテレビ取材への協力を行った。		3		
	・各市町村教育委員会や各社会教育施設等へ博物館の利用を働きかけたか。	* 児湯郡内と宮崎市の社会教育関連施設を訪れて利用の働きかけと、共同での誘客の取組について依頼した。		2		
・観光事業団体等との連携による誘客に取り組んだか。	* シーガイア内のアクティビティセンターに出向いてチラシやイベントレンドアの配付を依頼した。 * 大型商業施設イオン宮崎内で、特別展と国際交流展への来館を呼びかけるポスター掲示を行った。		2			
② 博物館ホームページ等の充実	評価指標	目標値	実績値	個別評価	3	
	ホームページ更新回数	年48回以上	*70回更新			
事業実績及び課題		* 当館のFacebookページを63回更新した。 * 当館HPの「総ページビュー数」と「総訪問者数」は減少となっている。				

(6) 経営

項目	内部評価				外部評価	
	評価指標	目標値	実績値	個別評価	総合評価	評価・意見
① 県民等からの意見の反映	アンケート収集件数	年1,200件以上	*364件回収	1	3	41) アンケート収集の件数が364件ということで、60,907人の入館者の割には回収率が低いように思う。QRコードの活用は図られているが、もう少し、入館者の声を聞けるようなアンケート実施の工夫・改善を行い、回収率を上げてほしい。 42) アンケートの収集件数が目標を下回ったのは、コロナ禍の影響によるものもあり仕方ないと思うが、アンケート回答における満足度が目標を上回ったことは、展示内容の工夫や職員の資質向上の取組を進めた結果であると推察でき、大変評価できる。なお、「職員の資質向上」については、評価の客観性を持たせるため、研修会の開催件数や参加人数など、次期計画策定時に目標値の設定を行うことをご検討頂きたい。 43) アンケートの収集量があまりに少なく、これだけでは分析するには不十分であることは自明であると思うが、なぜアンケート収集がうまくいっていないのか具体的な原因と対応策が見えてこない。あまりにアンケートを収集するのが難しいのであれば、例えば簡単な景品を用意し、退館時にアンケートに答えた方に配ったり、アンケートに回答してもらった方に年間通じて数名に様々な入場券等をプレゼントするなど、アンケートを答える側が答える理由になるようなことを目に見える形で提示してはどうか。
	事業実績及び課題		* 年2回のアンケート週間の取組やQRコード方式(スマートフォン・タブレットでのQR読み込みによる回答)を導入したが、館活動が制約を受けたこともあって、目標を大きく下回った。			
	評価指標		実績値			
	アンケート回答における満足度	「満足」が80%以上	*81.7% (「大いに満足」「概ね満足」の合計)			
	事業実績及び課題		* 特別展と国際交流展の参加者から講演会の満足度を問う設問では、「大いに満足」と「概ね満足」が併せて79.0%であった。			
評価指標		事業実績及び課題				
・アンケート結果や博物館協議会等の意見を博物館活動や館運営に反映させているか。	* QRコードの読み取りによるアンケートの実施や館内表示の改善などいただいた意見を参考にして館運営の改善を図った。		3			

項目	内部評価			外部評価		
	評価指標	事業実績及び課題	個別評価	総合評価	評価・意見	
② 県民等との協働	・地域や県民等との連携強化を図り、新たな利用者の創出につなげたか。 また、ボランティアガイドと連携し、活動を支援したか。	* 運営支援を委託しているNPO法人「いさいと」の仲介により「中世山城講座」や「いさいとまちゼミ」に職員が参加するなど、地域の西都市や宮崎市の方々の輪を広げる活動を行った。 * ボランティアスタッフの日帰り研修や古墳群での親睦会に職員が参加して意見交換を行った。	3	3	<p>44) アンケート結果では、来館の交通手段の8割が自家用車＋レンタカーである。博物館のみで解決できる問題ではないが、運転ができないと来館が難しいという現状は、改善の方法を探るべきではないか。</p> <p>45) 実地訓練の結果を踏まえて危機管理マニュアルを改訂されたのは大変良かった。</p> <p>46) 職員の資質向上の、「館の実情や課題に応じて」や情報共有については事業実績がよく分からなかった。</p> <p>【全体を通して】</p> <p>47) コロナ禍の中でも工夫している点が見受けられた。</p> <p>48) せっかくの素晴らしいロケーションにあり、考古学に興味のない人も、施設に足を運べるような、運びたくなるような仕掛けができないだろうか。最上階の軽食コーナーなど、景色も良くもったいないと思う。また、施設を使ったコンサートや劇などもっとできると思う。県内にもたくさん演奏家や演劇グループがある。</p> <p>49) アンケートの結果からも、博物館の魅力、運営の努力の跡がうかがえ、評価できる。全体的に派手さはないが、しっかりした、良い博物館であると思う。ある意味、もったいない気がする。</p> <p>50) もっともっと、おもしろく、よい企画をして、情報発信を続けながら、一人でも多くの県民、観光客が集う場になることを願っている。</p> <p>51) 博物館は貴重な学びの場であり、かつ、重要な観光資源であると考えている。前向きにチャレンジを続けていただくよう希望する。</p> <p>52) 地域の貴重な考古学博物館として、今後も活発な活動を期待したい。</p> <p>53) 令和3年度もコロナの影響で来館呼びかけができず、経営のご苦労が大きかったことをお察しする。</p> <p>54) コロナの下で、入場者等に影響が出ることは致し方ないが、一方でインターネットを利用した情報の重要性や需要は高まっていると思われる。この機会に、ネット環境の整備を含め、世界に向けた情報発信の方法を工夫していただきたい。</p> <p>55) コロナによる影響で、修学旅行生の来館が増加したことは、西都原及び考古博物館の重要性が認識されていることを示している。この動きを続ける方法の検討も大事かと感じた。</p> <p>56) かつて、関西から高校生や大学生の修学旅行生が大量にやってきた時代があった。関西との新船就航の機会をとらえて、県の支援を受けて増加を図ることも一策かと考えた。癒やしとしての西都原と博物館(旧資料館)との売り込みだったようで、半日または一日を自由に過ごしていた。(時代の変化に応じた方法が必要ではあるが。)</p> <p>57) 昨年度、「新型コロナウイルス感染症の影響で、小中学校の県内修学旅行が昨年度大幅に増加している。自治体によっては、誘致活動を積極的に行って、来場、来館等の増加が見られた施設等もあるが、考古博物館として、修学旅行の誘致についての広報活動等はなされたものか。」という質問を評価・意見の欄でさせていただいたが、修学旅行・遠足等の誘致のための広報活動の現状と実際県内外でどれぐらいの学校が利用されたか状況を教えていただけるとありがたい。</p> <p>58) 「百余国の「王」と『王之山』の玉璧」展で、金印レプリカを実際に押してみることでできる体験コーナーがあった。立ち止まって見ていると、スタッフの方が「押してみますか」と声をかけてくださり、やってみると「きれいに押せましたね」とほめてくださった。こうしたさり気ないフォローが来館者にはうれしく、ひいては館の好感度アップにつながる。今後も、ガイドボランティアの活躍に期待したい。</p>	
	・外部団体等の主催による研修等に参加したか。	* 文化庁や日本博物館協会などが主催するオンライン研修会等に参加した。	3			
・館の実情や課題に応じて内部研修等を行ったか。	* コンプライアンスや人権関連、危機管理などの館内研修を実施した。	3				
・研修の成果を館内の会議等で報告し、情報を共有したか。	* 全職員が参加する全体会で報告することとしているが、報告の対象自体が少数にとどまった。	2				
③ 職員の資質向上	評価指標	目標値	実績値			個別評価
	防災訓練、研修等の実施	年2回以上	* 6月と3月の2回実施した。			3
	事業実績及び課題	* 災害の際の対応力を養うために、事前に細かな内容を告知せずに訓練を行った。また、終了後は班に分かれて反省点を出し合うなど、有事への心構えと技能の向上を図った。				
	評価指標	事業実績及び課題	個別評価			
④ 危機管理体制の強化	・危機管理マニュアルを全職員に周知し、必要に応じて改訂を行ったか。	* 年度当初に全職員に配付した。 * 防災訓練の結果を反映させる形で3月に改訂を行った。	3			
	評価指標	事業実績及び課題	個別評価			
⑤ 施設・設備の管理	・施設・設備の維持改善の計画を策定しているか。 また、改善が必要な箇所については、計画的に改修等を行っているか。	* 県の「営繕工事計画」に準拠して計画的に実施している。 * 交換時期が到来したエレベータ部品の取替や、和式トイレの洋式化工事を行った。	3			

3.0